

平成 20 年度 中学校第 1 回入学考査問題 (社会)

(その 1)

問題 次の文章をよく読んで、あとの問いに答えなさい。

みなさんは水木しげるさんの描いた『ゲゲゲの鬼太郎』という **《資料 1》** マンガを知っていますか。《資料 1》は『鬼太郎』の一場面です。

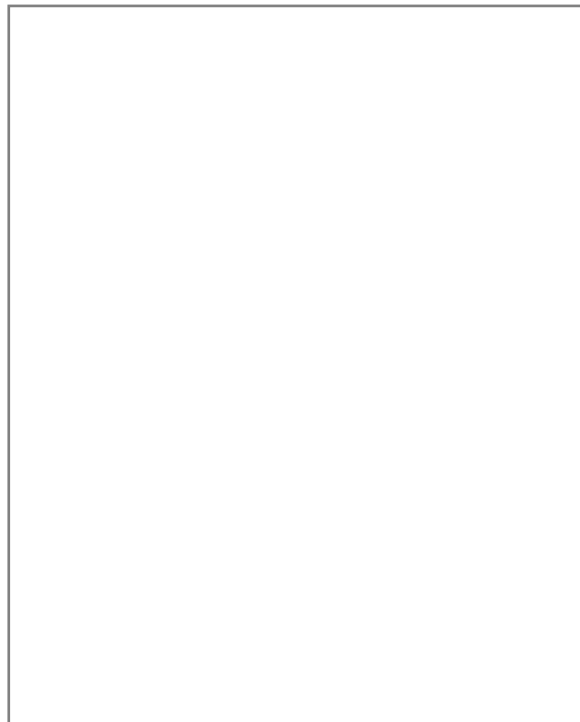
①テレビ・アニメとして放送されただけでなく、去年は映画にもなり、大きな話題となりました。幽霊族のただ一人の生き残りである鬼太郎が、目玉おやじなどの仲間と協力し、人間に悪さをする妖怪たちをこらしめるというストーリーです。

さて、この『鬼太郎』にはさまざまな妖怪が登場します。作者の水木さんは、自分の少年時代の体験をもとにして、それらを想像し、描いてきました。彼は②鳥取県境港市で生まれ育ちました。そこは③宍道湖とそれに続く中海が日本海に出るところにある港町で、古い伝承がゆたかな土地です。そうした伝承を、近所に住んでいた「のんのんばあ」と呼ばれるおばあさんから聞いて、水木さんは育ちました。そして、そのおばあさんからいろいろな妖怪がいることを聞き、どこにいて、どのようなことをするのかも教えてもらったのです。

例えば、「海坊主」という妖怪は、「胴回りが小さなたらいほどある杭のような形の一つ目の化け物」で、「海辺を通る人を見つけては体をもたれかけ、体の油のぬるぬるしたものをこすりつけようとする」と聞かされました。またこのほかに、夜道で人を迷わす「化けダヌキ」なども、のんのんばあから教わっています。そうした話を聞いて、海坊主に実際に会った気になり、近くの山や松林などに妖怪が本当にいると信じるようになったそうです。やがて大人になり、④兵隊として南の島に行ったときも、魚屋として働いていたときも、それは変わることはなかったのです。そして、少年時代からずっともちつづけていた妖怪への思いを水木さんはやがてマンガに込めるようになったのです。

ところで、そもそもなぜ人びとはこのような妖怪の存在を信じたりするのでしょうか。人びとは何か「不思議だ」と思うことが自分の生活にあるとき、その不思議なことを説明するために、妖怪を想像するといわれています。例えば、毎日、夜中になると天井から物音が鳴るとしましょう。これを不思議と思えば、それは妖怪のしわざとなります。しかし、これがねずみのせいだとわかると、妖怪は消えてしまうのです。とくに日本人は、⑤自然のなかに「不思議」を多く見いだしてきましたので、妖怪も自然をすみかとしてきました。自然のなかにすむ特定の動物、とくにキツネやタヌキ、ヘビなどがむかしから妖怪になると恐れられてきました。むかしの日本には、人間の生活の場からそう遠くないところに、山や森、原野などが広がっていて、そこをヘビが這い、キツネやタヌキがよく出ていました。夜にそれらが、妖怪になると考えられていたのです。日本人は、どこからともなく聞こえてくる怪しげな音を「キツネの神楽」と呼んだり、遠くに見える明かりを「キツネ火」と呼び、恐れてきたのです。

しかし、⑥日本が高度経済成長期にはいつてからは、人びとはあまり妖怪の存在を信じなくなりました。人びとは科学の立場から物事を考えはじめ、キツネの神楽も、隣村の祭りの音が風に乗りに聞こえてくるものというように否定するようになりました。こうして、現代の私たちは、水木さんのように妖怪を自分自身で実際に感じるができなくなり、かわりに『鬼太郎』などの妖怪が登場するマンガや映画を通して、妖怪を知るようになったのです。もう私たちが実感できない妖怪を伝えてくれるからこそ、現在『鬼太郎』は人気があるのではないのでしょうか。



『鬼太郎国盗り物語』の一場面

問1. 下線部①について。今はアナログ放送が中心ですが、やがてそれらがすべてデジタル放送に変わることが決まっています。アナログ放送が、すべてデジタル放送に変わるのは何年ですか、数字を使い、西暦で答えなさい。

問2. 下線部②について。

- (1) 「鳥取」という呼び名は古くからあり、8世紀につくられた歴史書にも登場します。その歴史書は、江戸時代に本居宣長が研究したことで知られていますが、その歴史書の名前を漢字で答えなさい。
- (2) 境港は日本を代表する漁港ですが、2004年以降、日本で一番水あげ量が多かった静岡県の漁港を答えなさい。

問3. 下線部③について。

- (1) これまで長い間宍道湖の漁民は、中海の埋め立て計画に反対してきました。次の《資料2》・《資料3》・《地図》を使い、その理由を150字以内で説明しなさい。そのとき、中海の計画が宍道湖の環境にどのような変化を与え、またそれが宍道湖の漁業にどのような影響を及ぼすのかを明らかにして説明しなさい。

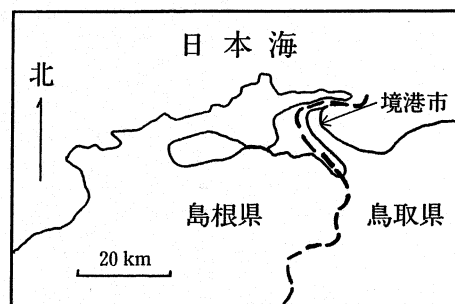
《資料2》

中海と宍道湖には、たくさんの種類の生物が育まれています。なぜなら、中海と宍道湖は海とつながっているので、川や湖の生物だけでなく、海の生物も棲めるからです。とくに中海は日本海から多くの海水が流れ込むので、スズキなどの海の魚がたくさんとれます。一方の宍道湖には、海水が少しだけ流れ込み、そのほとんどは中海からのものです。シジミはそのような塩分の薄い水を好むので、宍道湖ではシジミ漁が盛んです。こうした二つの湖の環境に変化を与える計画が、1954年に島根県により発表されました。それは中海の一部を埋め立てて農業用地にする計画でした。しかし、中海の水は海水が混ざっていて農業に適していません。そのため、中海の海への出口をふさぐ計画も含まれていました。その後、埋め立て計画は開始されましたが、中海の環境が壊されることとして反対運動が起こり、生活に影響を受ける宍道湖の漁民も反対に回りました。その結果、2002年に計画の中止が発表されました。

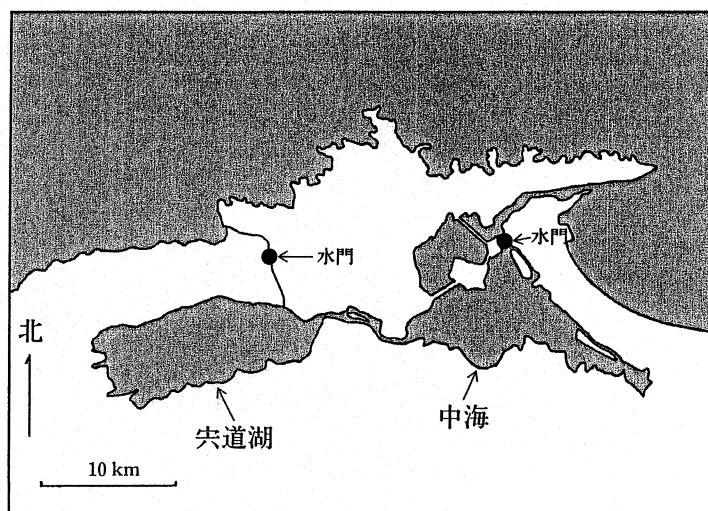
《資料3》シジミの漁獲量 (単位: t)

順位	湖沼名	漁獲量
1	宍道湖	7,430
2	小川原湖	2,704
3	十三湖	2,323
4	網走湖	787
5	能取湖	544

《地図》



(『平成13年度 漁業・養殖業生産統計年報』より作成)



(2) 中海・六道湖はラムサール条約に登録されています。ラムサール条約とはどのような目的でつくられた条約ですか、説明しなさい。またラムサール条約に登録されている他の湖を、次のア～オの中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 浜名湖 イ. 猪苗代湖 ウ. サロマ湖 エ. 霞ヶ浦 オ. 琵琶湖

問4. 下線部④について。水木さんが兵隊として参加した戦争は太平洋戦争です。この戦争の説明として正しいものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 日本の艦隊が、日本海でロシアの艦隊を破った。
 イ. 日本軍が、イギリス領のマレー半島などを攻撃し、戦争がはじまった。
 ウ. 日本は、中国と戦い、台湾とリアオトン（遼東）半島を獲得した。
 エ. 日本軍は、朝鮮半島を攻撃し、韓国を併合した。

問5. 下線部⑤について。人びとの募金などで土地を買い取り、森や山などの自然を守る運動があります。その運動の名前を答えなさい。

問6. 下線部⑥について。

(1) 高度経済成長期とは、日本の経済が大きく発展したおおよそ1960年頃から1970年代初めを指します。この時期の説明として正しいものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 各地で公害が発生し、環境基本法がつけられた。
 イ. カラーテレビ・クーラー・自動車が「三種の神器」と呼ばれ、広まった。
 ウ. サンフランシスコで講和会議が開かれ、平和条約が調印された。
 エ. 韓国と日韓基本条約を結び、国交がひらかれた。

(2) 高度経済成長期以降、なぜ人びとは妖怪たちを信じなくなったのでしょうか。科学的な立場から物事を考え始めたこと以外の理由を本文と次の《資料4》・《資料5》を参考にして、200字以内で説明しなさい。そのとき、高度経済成長期に、妖怪の話を受け継いでいく家族のあり方と人間の生活する環境にどのような変化があったのかを明らかにして答えなさい。

《資料4》

核家族世帯数

(単位：千世帯)

年代	世帯数
1920年	6,152
1955年	10,366
1960年	11,788
1970年	17,186
1980年	21,594

(『人口統計資料集』より作成)

※核家族とは、夫婦とその子どもからなる家族のことをいいます。

《資料5》

高度経済成長期には、タヌキやキツネのすみかだった森や林が、どんどん開発されました。開発された森や林は、工場や住宅地になり、道路もアスファルトになりました。このようにこの時期に、日本の多くの地域から自然の姿が消えていきました。その結果、人びとは建物や舗装道路といった人工物に取り囲まれて生活するようになったのです。それ以前の日本人が体験してきた生活や景観とは違う、まったく新しい環境が生まれたのです。

(小松和彦「妖怪学新考」を参考に作成)

